

# F-31 栄養家計簿における食品購入状況について(第2報)

—主食形態別にみた食品購入状況及び食費について—

女子栄養大 ○川村玲子 小林淑子 岡崎光子 香川 綾

目的 栄養家計簿における標準食費の算定を昭和28年より毎年行なっているが、今回は主食形態別に食品購入状況及び食費などの実態から、標準食費算定のための基礎資料を得る目的で行なった。

方法 栄養家計簿をつけている主婦の記録資料のうち、今回は昭和44年11月61世帯及び50年11月58世帯の、1ヶ月間の食品購入重量、食品購入価格及び朝食夕の献立記録を基にして主食の別を分類し、主食形態別に食品購入量と価格及び食費について検討を行なった。

結果 朝食夕別に主食形態をみると、朝食で差が大きく、1ヶ月のうち70%以上、パンを主食としている世帯が44年27世帯(44.3%)50年19世帯(32.8%)あり、お粥を主食としている世帯が44年34世帯(55.7%)50年39世帯(67.2%)であった。食事担当者である主婦の平均年齢は、44年がパン食世帯35.0才お粥食世帯35.3才、50年がパン食世帯38.6才お粥食世帯38.8才であり、主婦年齢に主食別による差はほとんどみられない。平均1人1日当り食費は、44年がパン食世帯276.6円お粥食世帯274.8円、50年がパン食世帯595.1円お粥食世帯567.3円であり、44年50年共にパン食世帯にやや高い傾向がみられる。食品購入状況を食品群別にみると、お粥食世帯に比べてパン食世帯は両年共に卵、砂糖、油脂類の購入量が多く、一方お粥食世帯では魚、豆製品、緑黄色野菜、芋類の購入量が多い。又、44年にはパン食世帯に多く購入されていた牛乳乳製品が50年にはお粥食世帯での購入量が多く、献立上から主調理に牛乳を取り入れるなど、比較的にお粥食世帯の方に多く使用されている傾向がみられた。